

自作教具の活用事例

【作品名】 おはなしくん	【学校名】 日立市立塙山小学校
【活用できる領域・教科等】 自立活動・学級活動・道徳等	【制作者名】 橋本 史夫
【制作の意図】 ・児童は自分の発する言葉で、知らないうちに相手を嫌な思いにさせていることがある。これはそれに気付かせるための教具であり、スイッチを入れると、話しかけたことがそのまま返ってくるようになっている。いやな言葉かけをしてもよい言葉かけをしてもそのままの言葉で返ってくることを体感させ、よりよい言葉遣いがお互いの気持ちや人間関係をよくすることに気付かせるための教具である。	【使用の方法】 ・自立の時間や道徳の時間等、ロールプレイの中で使用する。スイッチを入れると、自分の発した言葉がこだまのように返ってくるようになっている。 ・用途に応じて母親・父親・友達・妹・弟など様々な顔に交換可能である。
【制作上の工夫】 ・製作費と製作時間を抑えるため、廃棄予定であったオウム返しをする機械にシチュエーションにあった顔を取り付けるだけで簡単に製作できた。顔の貼り替えも簡単にできる。	【見取り図】 <表面>  男性バージョン 女性バージョン
【写真】 	<裏面>  顔に向かって話しかけると、裏面のスピーカーから自分が話した言葉が出てくる。
【材料・材質・部品等】 ・オウム返しをするおもちゃ ・様々な顔のイラスト	【使用効果と応用発展】 ・自分が話した言葉がオウム返しに返ってくることで、「むかつく」という言葉を発した児童もいた。自分で言われて嫌なことは相手に言わないということを身をもって体験できた。 ・通常学級では、道徳のロールプレイ等でも使用できる。